

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和1年9月26日(2019.9.26)

【公開番号】特開2018-47049(P2018-47049A)

【公開日】平成30年3月29日(2018.3.29)

【年通号数】公開・登録公報2018-012

【出願番号】特願2016-184726(P2016-184726)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028 (2006.01)

A 6 1 B 3/032 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/02 A

A 6 1 B 3/02 C

【手続補正書】

【提出日】令和1年8月10日(2019.8.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

左右一対に設けられた右眼用投光光学系と左眼用投光光学系を有し、視標光束を被検眼に向けて照射して視標を被検眼に投影する投光光学系と、

左右一対に設けられた右眼用矯正光学系と左眼用矯正光学系を有し、前記投光光学系の光路中に配置され、視標光束の光学特性を変化する矯正光学系と、

を有し、被検眼の光学特性を自覺的に測定する自覺式検眼装置であつて、

前記右眼用投光光学系又は前記左眼用投光光学系の一方の投光光学系から視標光束を照射し、左右の被検眼の一方の被検眼に第1視標を投影するとともに、前記右眼用投光光学系又は前記左眼用投光光学系の他方の投光光学系から視標光束を照射し、前記左右の被検眼の他方の被検眼に第2視標を投影する制御手段と、を備え、

前記第1視標は、検査視標及び第1背景視標を含み、

前記第2視標は、前記第1背景視標と同一パターンの第2背景視標を含むことを特徴とする特徴とする自覺式検眼装置。

【請求項2】

請求項1の自覺式検眼装置において、

前記第1視標は、第1融像視標を含み、

前記第2視標は、前記第1融像視標と同一パターンの第2融像視標を含むことを特徴とする検眼装置。

【請求項3】

請求項2の自覺式検眼装置において、

前記第1融像視標は、前記検査視標を囲むように枠形状で構成されていることを特徴とする特徴とする自覺式検眼装置。

【請求項4】

左右一対に設けられた右眼用投光光学系と左眼用投光光学系を有し、視標光束を被検眼に向けて照射して視標を被検眼に投影する投光光学系と、左右一対に設けられた右眼用矯正光学系と左眼用矯正光学系を有し、前記投光光学系の光路中に配置され、視標光束の光学特性を変化する矯正光学系と、を有し、被検眼の光学特性を自覺的に測定する自覺式検

眼装置において用いられる自覚式検眼プログラムであって、前記自覚式検眼装置のプロセッサによって実行されることで、

前記右眼用投光光学系から視標光束を照射し、右の被検眼に検査視標及び第1背景視標を含む第1視標を投影するとともに、前記左眼用投光光学系から視標光束を照射し、左の被検眼に前記第1背景視標と同一パターンの第2背景視標を含む第2視標を投影する第1投光制御ステップと、

前記左眼用投光光学系から視標光束を照射し、左の被検眼に検査視標及び第3背景視標を含む第3視標を投影するとともに、前記右眼用投光光学系から視標光束を照射し、右の被検眼に前記第3背景視標と同一パターンの第4背景視標を含む第4視標を投影する第2投光制御ステップと、

を前記自覚式検眼装置に実行させることを特徴とする自覚式検眼プログラム。

【請求項5】

左右一対に設けられた右眼用投光光学系と左眼用投光光学系を有し、視標光束を被検眼に向けて照射して視標を被検眼に投影する投光光学系と、左右一対に設けられた右眼用矯正光学系と左眼用矯正光学系を有し、前記投光光学系の光路中に配置され、視標光束の光学特性を変化する矯正光学系と、を有し、被検眼の光学特性を自覺的に測定する自覚式検眼装置において用いられる自覚式検眼プログラムであって、前記自覚式検眼装置のプロセッサによって実行されることで、

前記右眼用投光光学系又は前記左眼用投光光学系の一方の投光光学系から視標光束を照射し、左右の被検眼の一方の被検眼に検査視標及び第1背景視標を含む第1視標を投影するとともに、前記右眼用投光光学系又は前記左眼用投光光学系の他方の投光光学系から視標光束を照射し、前記左右の被検眼の他方の被検眼に前記第1背景視標と同一パターンの第2背景視標を含む第2視標を投影する投光制御ステップを前記自覚式検眼装置に実行させることを特徴とする自覚式検眼プログラム。

—